

# 奥沢交和会の紹介

## ● 奥沢交和会について

奥沢交和会は「防犯・防災にも強い町づくり」を目指して会員相互の融和と親睦を図り、子どもから大人まで安心して楽しく暮らせる町を目標に活動をしている自主的な自治組織です。

町会にお住いの皆様と、区・警察・消防等の行政機関よりのご連絡をはじめ、青少年・高齢者・防災対策事業等に重点を置きながら、日本赤十字・共同・歳末たすけあい・社会福祉協議会への募金協力も行っています。

## ● これまでの歩み

西暦	年号	できごと
1947	昭和22年	<ul style="list-style-type: none"><li>前身となる玉川防犯協会奥沢支部・奥沢防犯協会設立</li><li>奥沢交和会設立総会開催</li><li>初代理事長に大條駒雄氏就任</li></ul>
1967	昭和42年	<ul style="list-style-type: none"><li>「交通事故をなくす町ぐるみ大会・親子の交通安全の集い」開催（住民参加でパレード）</li></ul>
1971	昭和46年	<ul style="list-style-type: none"><li>奥沢交和会 創立25周年</li></ul>
1973	昭和48年	<ul style="list-style-type: none"><li>第1回「奥沢納涼盆踊り大会」開催</li></ul>
1976	昭和51年	<ul style="list-style-type: none"><li>第2代理事長に井上眞治氏就任</li><li>奥沢交和会 創立30周年</li></ul>
1982	昭和57年	<ul style="list-style-type: none"><li>第1回新春奥沢地区まつり開催</li></ul>
1987	昭和62年	<ul style="list-style-type: none"><li>現奥沢交和会館が竣工</li></ul>
1996	平成8年	<ul style="list-style-type: none"><li>奥沢交和会 創立50周年（目黒雅叙園）</li></ul>
1997	平成9年	<ul style="list-style-type: none"><li>第3代理事長に原田正幸氏就任</li></ul>
2003	平成15年	<ul style="list-style-type: none"><li>町内3つの公園で記念植樹</li></ul>
2006	平成18年	<ul style="list-style-type: none"><li>奥沢交和会創立60周年（町内をパレード）</li></ul>
2007	平成19年	<ul style="list-style-type: none"><li>世田谷区と災害時要援護者支援に関する協定締結</li></ul>
2009	平成21年	<ul style="list-style-type: none"><li>「奥沢交和会だより」第1号を発行</li></ul>
2011	平成23年	<ul style="list-style-type: none"><li>第4代理事長に塩谷良一氏就任</li></ul>
2016	平成28年	<ul style="list-style-type: none"><li>奥沢交和会創立70周年（エクセルホテル東急）</li></ul>
2017	平成29年	<ul style="list-style-type: none"><li>世田谷区都市デザイン課協力のもと、「界わい形成地区」の指定に向けて検討を開始</li></ul>
2021	令和3年	<ul style="list-style-type: none"><li>奥沢交和会創立75周年 「奥沢交和会と町の歴史展」開催</li></ul>



## ● 主な取り組み・活動

奥沢交和会は文化部・健康管理部・防火部・防災部・防犯部・交通部・青年部・高齢対策部・リサイクル委員会・美化委員会・災害時要援護者支援委員会などで組織され、活動しています。以下では主な活動の一部を紹介しています。

### 祭事・文化活動



新春奥沢地区まつり（奥沢中学校）



盆踊り大会（奥沢小学校）

### 防災・安全活動



毎年歳末警戒を実施



防火診断で家庭に訪問

### 美化・リサイクル活動



定期的に古布回収



落ち葉掃き

### 風景づくり活動

平成29年度からは世田谷区都市デザイン課協力のもと、奥沢の魅力的な風景を守り育てる手立てとして「界わい形成地区」の指定に向けて検討を進める取り組みを行っています。



検討会の様子（奥沢交和会館）



風景祭（平成30年 奥沢公園）



風景祭（令和元年 奥沢交和会館）

## ● 地域の皆様へ



奥沢交和会  
理事長 塩谷 良一

本会は、敗戦で真っ暗になった町を明るくしようと、地域の先輩方が昭和22年5月に新体制で町会を設立いたしました。

おかげさまで73年が経過し、多くの会員の皆様や関係者の方がたの取り組みにより、世田谷区でも有数の規模の町会となりました。

地域のさまざまなお祭りや防災訓練なども、毎年定期的に行われておりますが、町会といたしましても、「納涼盆踊り大会」や「会員旅行」「お花見会」健康を考えた「グランドゴルフ」や災害時を想定した「災害時要援護者支援委員会」の活動など多くの事業を展開しております。

過去の大震災や台風による被害を通じて、このようなコミュニティ（地域社会）がとても大切と言われておりますが、人と人とのつながりとおして住みよい町づくりをしていくことは、誰もが願っていることではないでしょうか。

「奥沢交和会」では、これからも事業を通じて、地域を築いてこられた高齢者から未来を託す子どもたちまで、笑顔があふれる町づくりを目指してまいります。さらに災害に強い町「奥沢」、住んでよかった町「奥沢」、そして新しい町の風景づくりにも取り組んでまいりたいと存じます。引き続きのご理解とご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

# 商店街 の風景

奥沢に軒を連ねるたくさんの商店はどれも  
お洒落で、魅力ある風景づくりに一役買って  
います。



## 上品な色使いで個性を出しつつ街並みと調和する



アクセント  
となる青が  
爽やかな印象  
を与えます。



## みどりを置くことで店先に潤いを与える



色とりどりの  
花がお客さん  
を楽しませて  
います。



## 看板は控えめかつシンプルなデザインで洗練された印象に



シンプルな色  
使いとデザ  
インが落ち着  
きのある雰  
囲気を与え  
ます。



## みどりのモデル地区

奥沢の商店街は「みどりのモデル地区」に指定され  
ている場所があり、各商店が積極的に店先にみどりを  
置くことで、潤いのある風景がつけられています。



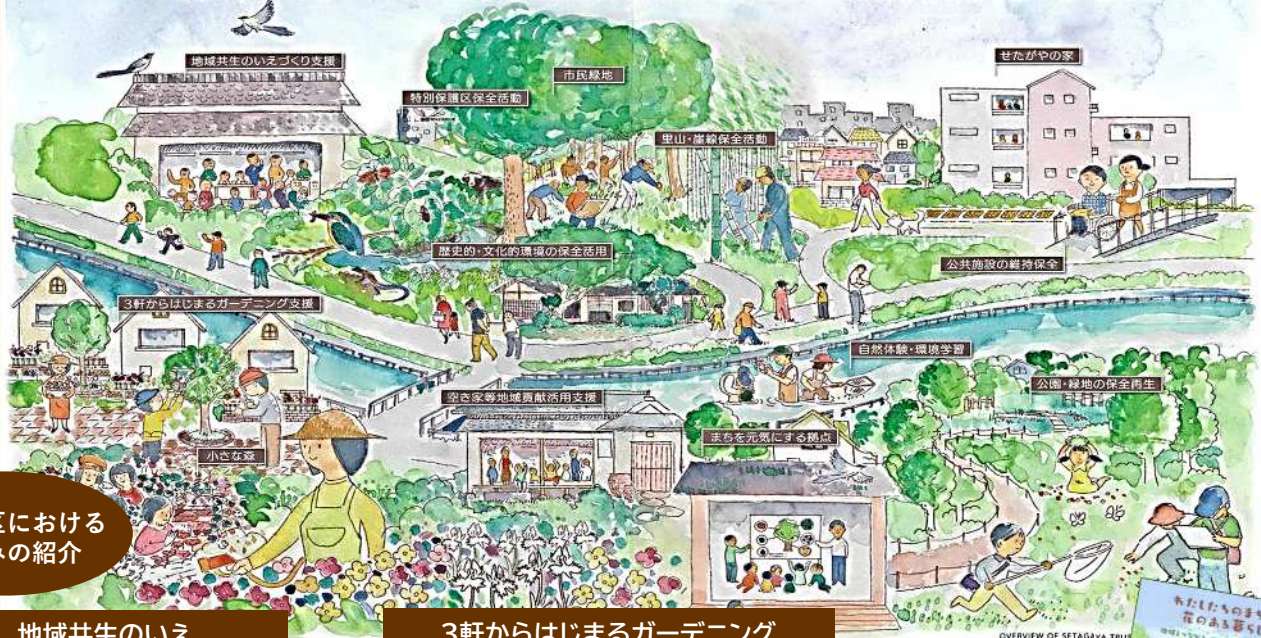
# 「土とみどりを守る会」・「奥沢地誌保存会」 展示の様子



# 世田谷トラストまちづくりの取組み

## ひと + まち + 自然

世田谷トラストまちづくりは、「ひと・まち・自然が 共生する世田谷」の実現に寄与してまいります。



### 奥沢地区における取組みの紹介

#### 地域共生のいえ



共通の関心事から生まれる交流の場  
**シェア奥沢**  
所在地 奥沢2-32-11

大正から引き継がれる空間  
**読書空間みかも**  
所在地 奥沢2-33-2



#### 3軒からはじまるガーデニング



四季の小径～OKUSAWA V～

はじめて  
みませんか  
3軒から！

- 支援1:ガーデニングアドバイザー派遣
  - 支援2:緑化資材購入費の一部助成
  - 支援3:区の各種緑化助成制度の橋渡し
- \*詳しくはパンフレットをご覧ください

### 世田谷の近代建築調査

#### 世田谷の近代建築 発見ガイド

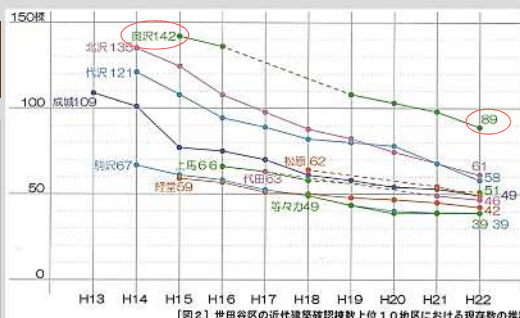
-世田谷の近代建築調査より-

昭和から昭和20年までに建てられた近代建築やその発展調査は、世田谷の町並みをつくりだしてきた重要な遺産であり、その時代の文化や生活、そして建築の美しさを伝えることのできる「世田谷の近代建築調査」も期待されるものです。この冊子を手に、みなさんも身近な地域の町並みもたどっていきましょう。



財団法人 世田谷トラストまちづくり

こちらは当財団より発行された「世田谷の近代建築発見ガイド-世田谷の近代建築調査より-(2012.3発行)」からの抜粋です。全編は定価500円にてお分けしています。当財団までお問い合わせください。  
電話 03-6379-1620 トラストみどり課



【図2】世田谷区の近代建築確認棟数上位10地区における現存数の推移



【図3】近代建築現存数 (平成23年3月現在)

#### (6) 海軍村

大正12年(1923)に日露戦争が閉幕すると、奥沢駅近くの土地を所有していた原氏は、借家の宅地化を見込んで地方宅地開発を行い、玉川全戸地籍整理が始まる前年の大正13年(1924)に、40区画ほどの敷地を借地として貸し出しました。その頃、同じ日露戦争の決定で多摩川(原:田園調布)でも市街地が分譲されていきましたが、どちらもや高層であったのに対し、地主自らが宅地開発を行ったこの住宅地はくらが割安でした。そこに目を付けたのが、海軍士官の親戚団体「永交社」でつくる水交住宅組合でした。  
当時、海軍省本部は露が隣にあり、また海軍大学校や海軍技術研究所が上大崎(目黒)に、さらに軍港が隣接するに置かれていたことから、奥沢はどの施設へ行くのにもとても池の利の良い場所でした。こうしたことから、口伝えに聞いた海軍士官たち、なかでも将官や佐官などの高級将校らが競って移住するようになって昭和10年(1935)頃には30世帯ほどが住居を構え、いつしかこの住宅地は「海軍村」と呼ばれるようになりました。  
海軍村に建てられた近代住宅は、その大半が洋風住宅、あるいは洋風和風住宅のものでした。これらの住宅はすべてに親舎するのですが、近隣で行われた新地整理に比べるどやや道幅の狭い割りに、地主自らが行った住居の宅地開発の変遷を見ることができま。

